

食物及び薬物依存におけるドーパミンの遺伝学とその効用

要約

精神医学も含めた、これからの医学は遺伝子学の時代に入ってきているのは確かなので、DNAの役割と脳報酬神経路との多形的つながりを認識することにより依存行動への新しい理解につながってきています。この戦略には、脳報酬神経路の遺伝子障害即ち報酬欠陥症候群（RDS）に苦しむ何百万もの患者への治療を提供する可能性があることは注目に値します。この論文では、ドーパミントランスポーターとナトリウム食品の相互作用を含めて、薬物及び食物の相互依存と依存症におけるドーパミン遺伝の役割とその機能に焦点を当てています。私たちは複合依存症（RDS）の遺伝子的先例に関する私たちの概念について簡単に見返します。様々な研究から既定の報酬遺伝子及び多形型のパネルの評価によってRDSへの遺伝子リスクを層化できることもわかっています。パネルは「遺伝子依存症リスクスコア（GARS）」と呼ばれており、RDSになりやすい遺伝子体質の診断ツールとなっています。他の人々からも指摘されますが、このテストを用いれば非常に初期からリスクのある個人を識別することができ、医療界には恩恵を与えることになるでしょう。私たちは依存症の動物及び人間への更なる研究に励みます。私たちは食物及び薬物依存間に共通する神経遺伝子の相互関係を更に探究することに努め、また、「塩分食品依存仮説」のような仮説の前向きな考察を推し進めていきます。